

# 浅間山に問われつつ、 生きることの有り難さ

立科町教育相談員 岩上起美男

佐久平の北端に位置する標高2568mの浅間山は、日々、悠然とそびえています。

昔の人は、噴火を山焼け、溶岩流出を山押しと呼び、恐れていたようですが、何度もの山焼けと山押しによって、多くの人の命や財産、農作物、森林などを奪った災害の記録が嘘のように、浅間山はあくまでも静かに、美しく、雄大にそびえ立っています。

幾多の災厄と恐怖をもたらした日本有数の活火山であるにもかかわらず、軽井沢町と御代田町、群馬県吾妻郡嬬恋村の境に端然とたたずむ浅間山は、朝な夕な仰ぎ見る人に何かを語りかけ、時には優しく、時には厳しく叱咤激励しているように思われます。

心の中に、理由も得体も知れぬ深い暗愁が横たわっているとき、浅間山の雄々しい姿が、暗愁にまっすぐ向き合う元気を分け与えてくれるのです。

失敗を繰り返す自分、そして、その失敗を小賢しく取り繕おうとする自分に、晴れやかな浅間嶺が、正直であることの大切さを説いてくれるのです。

車を運転中、最高速度50km/hの道路を、40km/h前後で安全走行する車に閉口している自分の身勝手さに、視界の端に見える浅間山が気づかせてくれるのです。自分の都合によって、在るべき姿に

さえ不満を抱いてしまう自分であること  
を自覚させてくれるのです。それと共に、「狭い日本、そんなに急いでどこへ行く」に反して、「狭い日本、だから急げば早く着く」とか、「急がば回れ」に対して、「善は急げ」とか、「急いで事は仕損じる」と言いながら、「巧遅は拙速に如かず」とも言うとか、相反する様々な価値観を併せ持っている人間の複雑さを再確認させてくれるのです。

さらに、危険な割り込みや信号無視、運転中の携帯電話使用など、道路交通法規を守らないドライバーに心の中で罵声を浴びせている自分を、前方に広がる浅間山がいさめ、自分も五十歩百歩であることを教えてくれるのです。

さらにまた、「ここは、車いす使用者など身体の不自由な方の専用駐車スペースです。」という案内やマークがある駐車スペースに、平然と駐車する健常者のドライバーに対する憤りと嘆き、注意できなかった自分への怒りを、遠方に屹立する浅間山がなだめ、少なくとも自分は絶対にやるまい、と決意させてくれるのです。

そして、浅間山は、優れたカウンセラーのようにさりげなく、どのように児童・生徒を理解したらよいのか、考えさせてくれるのです。

地底に大きなエネルギーを抱え、時々、

真っ白な水蒸気を噴き出している浅間の山容は、四季折々、天候や時間帯によって、また、眺める場所に依じて、多彩な姿を見せます。ことに雨で土が流されてきた放射線状の谷が描く浅間山独特の美しい模様は、残雪や陽光によって、微妙に変化しています。さらに、折節の心境や体調によっても、浅間山の表情は千変万化に移ろいます。

このような千変万化の浅間山は、内面に広大な「宇宙」を秘め、時々刻々と変化し、成長している子ども達の姿と共通しているのではないのでしょうか。

浅間山を眺めるたびにそう考え、かつて荒れる中学生の対応に戸惑っていたころの苦い思いが、瞬時、よみがえってくるのです。それは、20数年前、短ラン・長ラン、ボンタン、茶髪、剃り込み、剃り跡も青白い極細の眉毛、といった異形で荒ぶれ、問題行動を繰り返す生徒集団に振り回されていた中学教師としての自分が、ふとしたこと（このような感動的な実体験こそ最もお伝えすべきですが、守秘義務及び教育的配慮によって、赤裸々に記すことができないこと、そして、それをもどかしく思っていることをご理解いただきたいと思います）から、「突っ張り中学生」の思いがけない繊細さに触れ、骨身にしみて感じた反省です。

突っ張っている生徒は、いかつい鎧と角を身にまとった装甲恐竜・トリケラ